

三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成22年度第2四半期決算ハイライト

平成22年11月15日

● 損益サマリー	2
● 部門別業績概要	3
● B/Sサマリー	4
● 貸出金・預金	5
● 国内預貸金利回り	6
● 貸出資産の状況	7
● 保有有価証券の状況	8
● 自己資本の状況	9
● 22年度業績目標／配当金予想	10

＜本資料における計数の定義＞

連結	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算	：	三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

(単位:億円)

●業務純益

- 業務粗利益は金利低下や貸出金減少に伴う資金利益減少の一方、債券売却損益等の大幅な改善により増加
- 営業費は引続きグループワイドな経費削減の取り組みが進展し減少
経費率は50%台半ばまで改善
- 以上の結果、実質業務純益は大幅に増加
中間期としてはMUFG発足後、最高益を計上

●与信関係費用総額

- 企業倒産の減少を背景に、貸倒引当金繰入額の負担が減少し、大幅に改善

●株式等関係損益

- 売却益が減少したほか、株式等償却の増加もあり減少

●中間純利益

- 法人税等の負担は増加したものの、中間純利益は大幅に増加

<連結P/L>

	21年上期	22年上期	増減
1 業務粗利益(信託勘定償却前)	18,132	18,707	574
2 資金利益	11,152	10,093	▲1,058
3 信託報酬+役員取引等利益	5,456	5,247	▲208
4 特定取引利益+その他業務利益	1,524	3,366	1,841
5 うち国債等債券関係損益	248	1,707	1,458
6 営業費	10,614	10,188	▲426
7 経費率	58.5%	54.5%	▲4.1%
8 実質業務純益	7,517	8,518	1,000
9 与信関係費用*1	▲4,442	▲1,904	2,538
10 株式等関係損益	133	▲273	▲407
11 その他の臨時損益	▲877	▲919	▲42
12 経常利益	2,330	5,420	3,090
13 特別損益	▲186	69	256
14 法人税等合計	425	1,848	1,422
15 中間純利益	1,409	3,567	2,158
16 与信関係費用総額*2	▲4,442	▲1,867	2,574
17 うち2行合算	▲2,240	▲580	1,660

*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)

*2 与信関係費用総額=与信関係費用+貸倒引当金戻入益+偶発損失引当金戻入益(与信関連)
なお、償却債権取立益を含めると▲1,530億円(前年同期比2,663億円)

<ご参考>

(単位:円)

18 1株当たり利益	11.08	24.60	13.52
19 連結ROE *3	3.77%	8.51%	4.73%

*3

(中間純利益×2)÷非転換型優先株式年間配当相当額

{(期首株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)

+ (期末株主資本合計-期末発行済非転換型優先株式数×払込金額+期末為替換算調整勘定)}÷2

×100

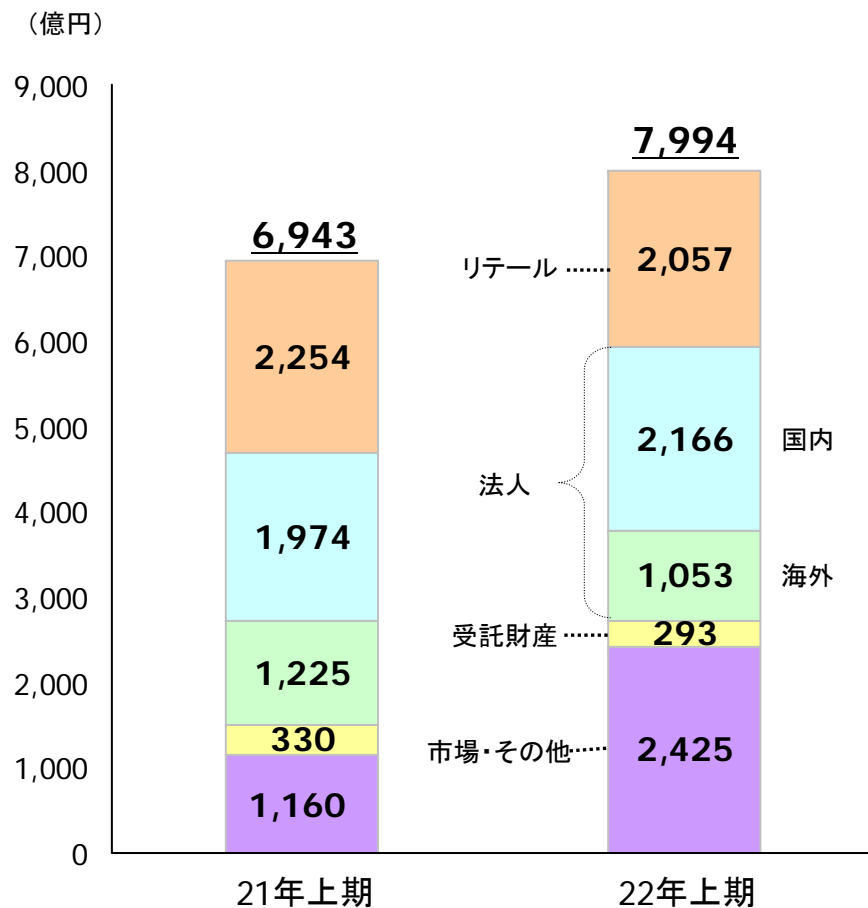
部門別業績概要

【連結】



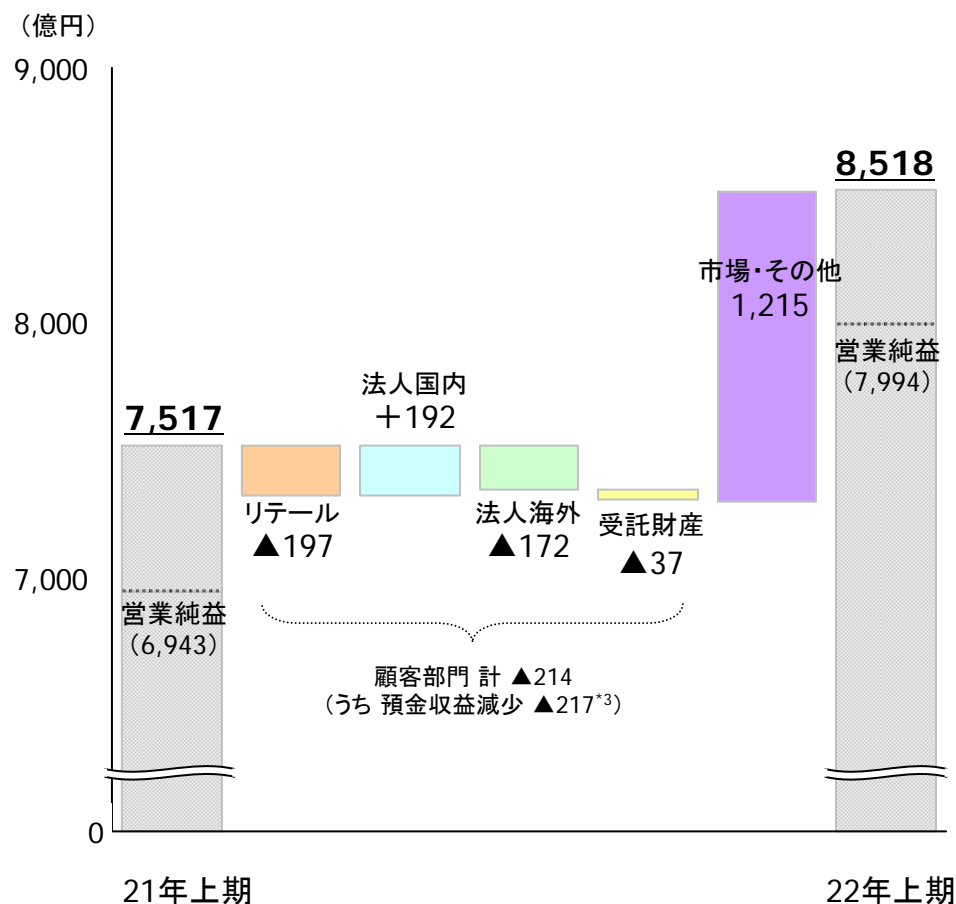
- 顧客部門では金利低下など市場環境の低迷が続いたが、市場部門の大幅な増益及び経費削減でカバーし、実質業務純益全体では前年同期比+1,000億円の増益

部門別営業純益^{*1}



*1 管理ベースの連結業務純益

実質業務純益増減内訳^{*2}



*2 部門別増減の内訳は管理ベース

*3 預金収益(管理ベース)は2行合算ベース

●貸出金

- 資金需要の低迷により国内法人貸出が減少、海外貸出は為替要因が主因

●有価証券

- 国債、外国債券を中心に増加

●預金

- 個人預金は引き続き増加も、国内法人預金を主因に減少

●純資産

- 優先株式の取得・消却等の減少の一方、中間純利益計上により、ほぼ横ばい

●開示債権

- 開示債権の増加により、開示債権比率は悪化も、依然低水準

●その他有価証券評価損益

- 国債、外国債券の評価益は改善するも、国内株式を中心に悪化

<連結B/S>

(単位: 億円)

	22年3月末	22年9月末	増減
1 資産の部合計	2,041,069	2,063,808	22,739
2 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	850,359 [848,806]	793,971 [792,544]	▲56,387 [▲56,261]
3 うち国内法人貸出*1	477,719	435,626	▲42,093
4 うち住宅ローン*1	174,673	174,172	▲501
5 うち海外貸出*2	166,517	156,122	▲10,394
6 有価証券(銀行勘定)	639,644	700,531	60,886
7 うち国債	397,253	435,416	38,162
8 負債の部合計	1,928,074	1,950,489	22,414
9 預金	1,238,919	1,222,687	▲16,232
10 うち個人預金(国内店)	630,453	632,907	2,454
11 純資産の部合計	112,994	113,319	325
12 国内預貸金利回り差 (2行合算)	(21年下期) 1.31%	(22年上期) 1.29%	(21年下比) ▲0.01%
13 金融再生法開示債権*1	13,487	14,159	671
14 開示債権比率*1	1.50%	1.69%	0.19%
15 その他有価証券評価損益	8,127	6,973	▲1,153
16 連結自己資本比率 (Tier1比率)	14.87% (10.63%)	15.24% (11.57%)	0.37% (0.93%)

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・預金

【連結】



●連結貸出金残高79.3兆円
(22/3末比▲5.6兆円)

<22/3末比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲4.2兆円
- 海外貸出*1 ▲1.0兆円

*1 海外支店+ユニオンバンクカル・コーポレーション+BTMU (中国)

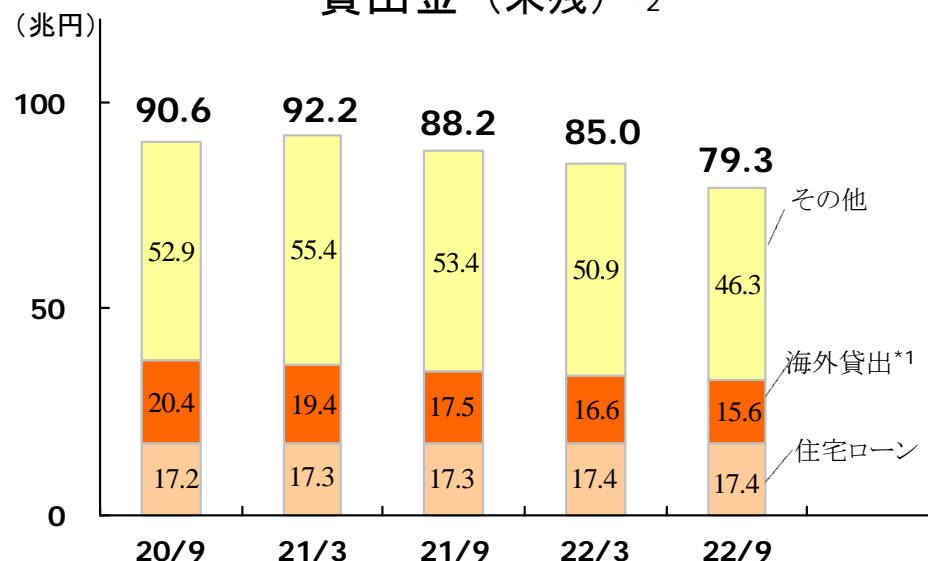
*2 銀行勘定+信託勘定

●連結預金残高122.2兆円
(22/3末比▲1.6兆円)

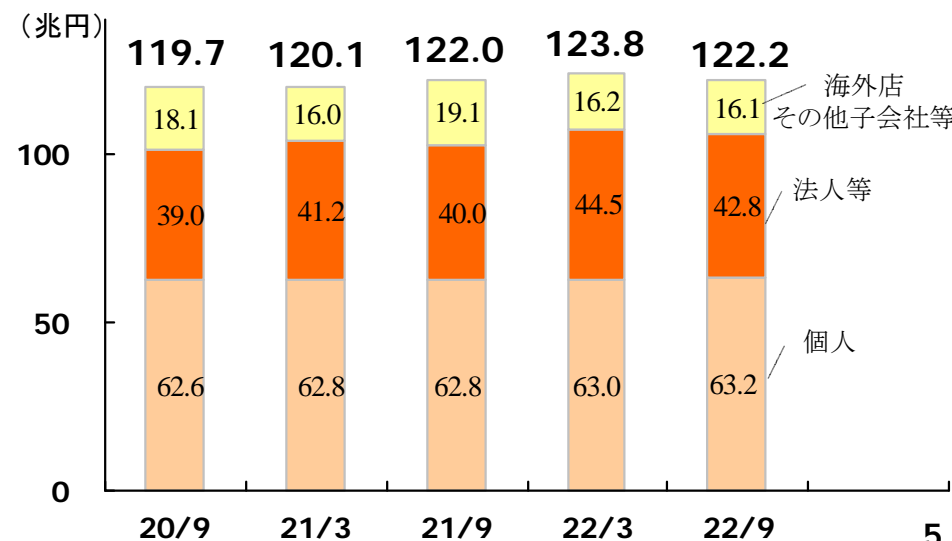
<22/3末比増減の主要因>

- 個人預金 +0.2兆円
- 法人等預金 ▲1.7兆円
- 海外店預金 +0.1兆円

貸出金 (末残) *2

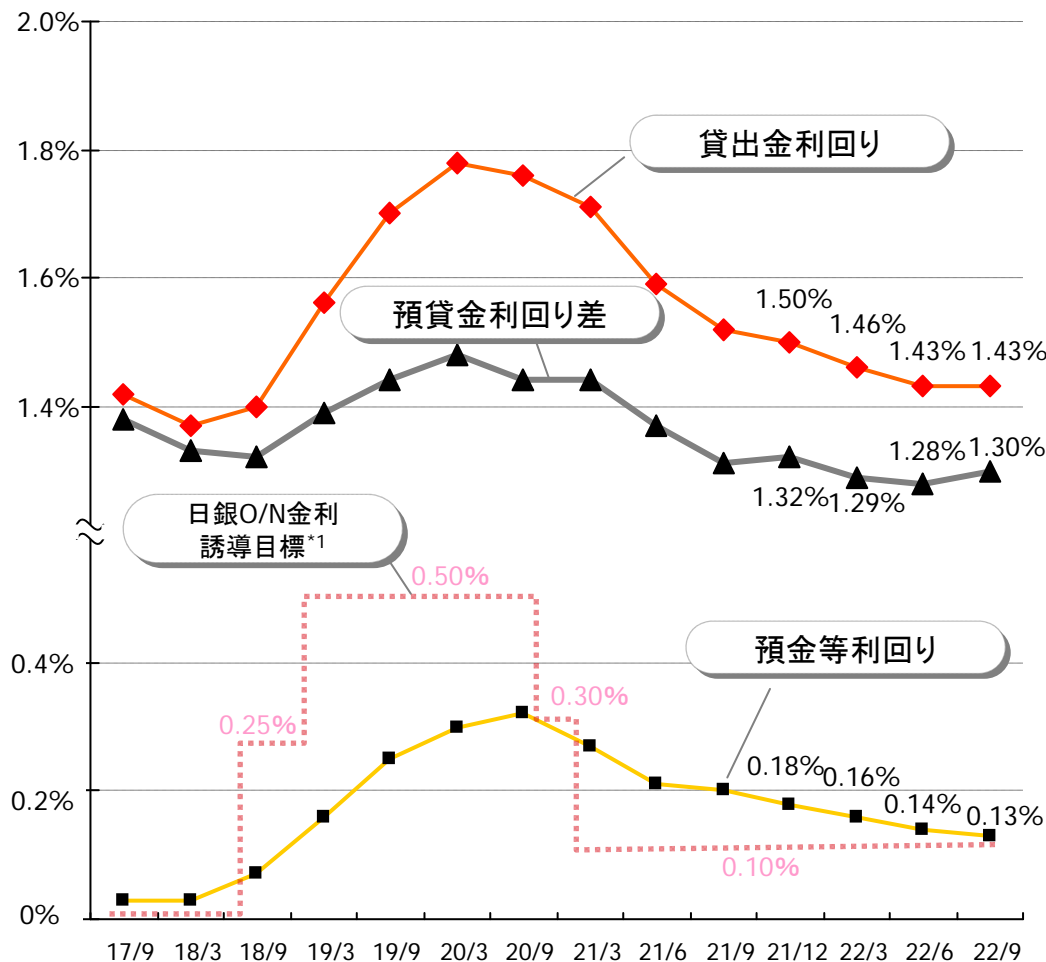


預金 (末残)



●22年7-9月期の預貸金利回り差は1.30%と前四半期比わずかながら上昇

国内預貸金利回りの推移



*1 量的緩和時は無担保コールレートO/N市場金利。量的緩和終了後は無担保コールレートO/N誘導目標

【金利改定状況】

- 20年11月4日
普通預金金利 0.200% ⇒ 0.120%
- 20年11月20日
短期プライムレート 1.875% ⇒ 1.675%
- 20年12月22日
普通預金金利 0.120% ⇒ 0.040%
- 21年1月13日
短期プライムレート 1.675% ⇒ 1.475%
- 21年4月1日
新規住宅ローン変動金利
⇒3月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 21年7月1日
既存住宅ローン変動金利
⇒4月1日時点の短期プライム連動長期貸出金利を基準に変更
- 22年9月6日
普通預金金利 0.040% ⇒ 0.020%

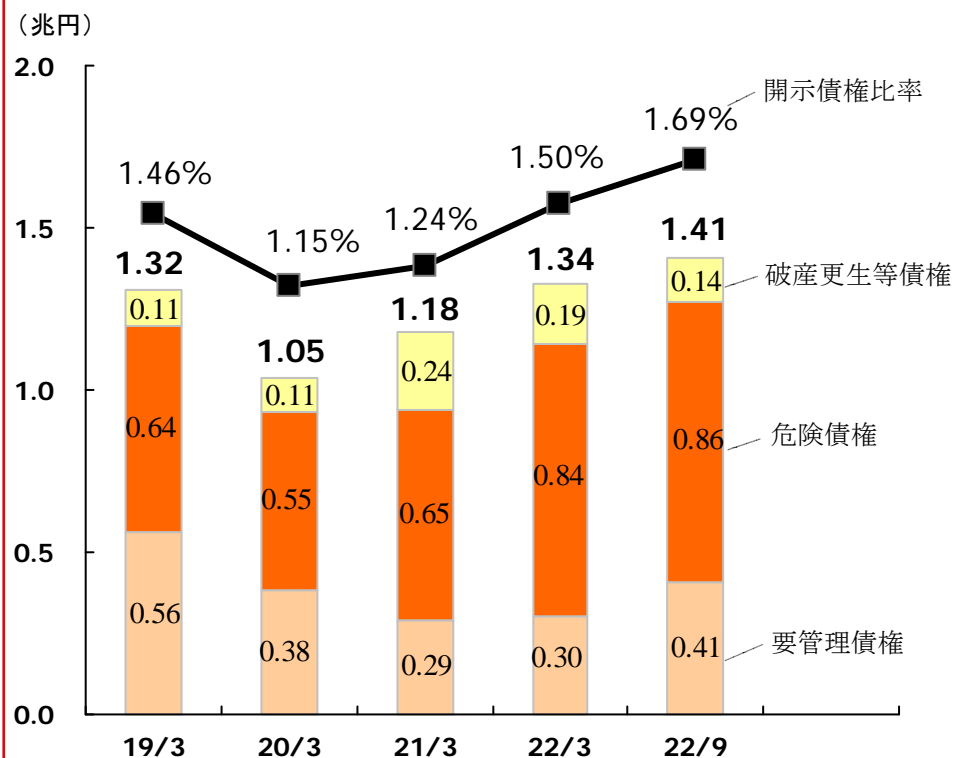
貸出資産の状況

【連結・2行合算】

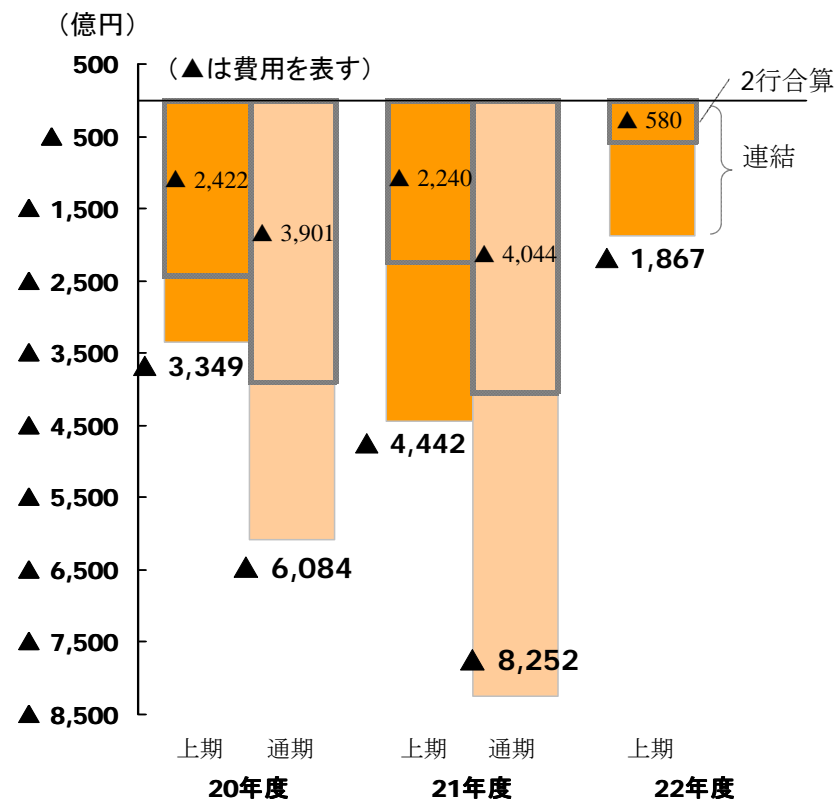


- 要管理債権の増加等により、開示債権比率は22年3月末比0.19ポイント上昇の1.69%となるも、引き続き低水準を維持
- 与信関係費用総額は2行合算で580億円、連結では1,867億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(2行合算)



与信関係費用総額



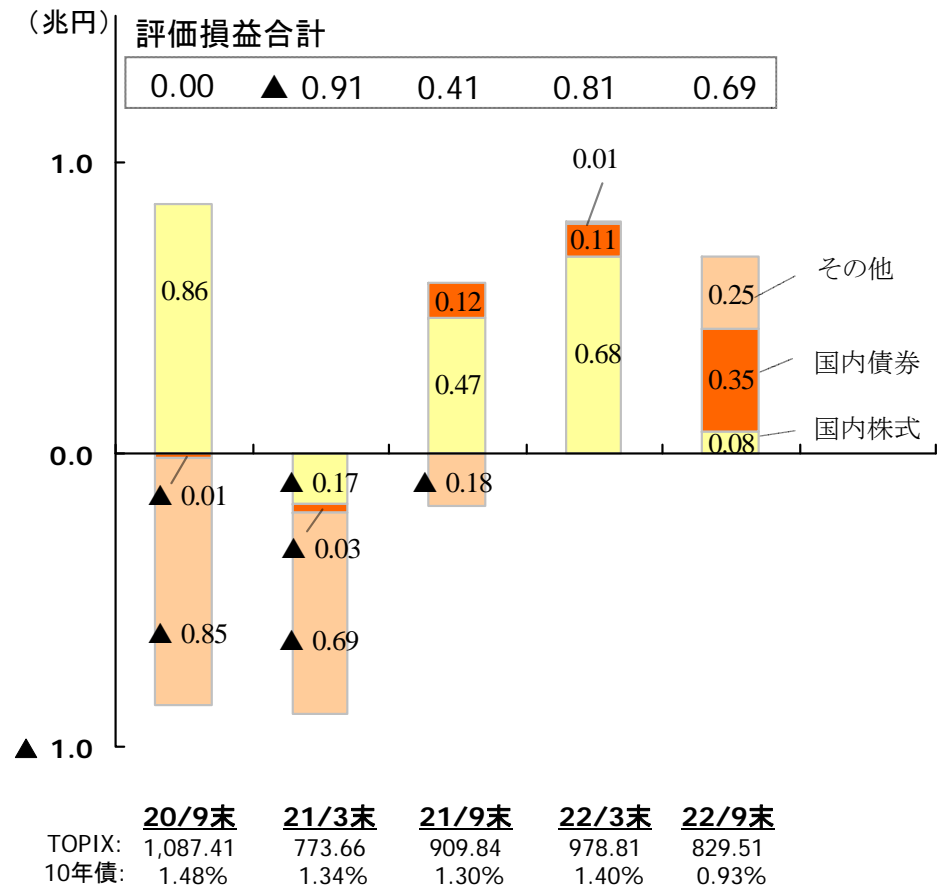
保有有価証券の状況

- その他有価証券全体の評価損益は22年3月末比1,153億円減少
国内株式の評価損益は悪化した一方、国債、外国債券の評価損益が改善

その他有価証券(時価あり)の内訳

		22年9月末残高		評価損益	
			22/3末比		22/3末比
1	合計	663,405	59,341	6,973	▲1,153
2	国内株式	35,380	▲7,393	879	▲5,938
3	国内債券	468,965	35,198	3,536	2,365
4	国債	425,643	38,162	2,795	1,996
5	その他	159,059	31,536	2,557	2,419
6	外国株式	2,618	▲207	643	▲92
7	外国債券	139,315	32,289	2,789	2,016
8	その他	17,126	▲545	▲874	495

その他有価証券評価損益の推移



● 自己資本額

- 優先株式の取得・消却の一方、利益剰余金の増加等により、Tier1は22年3月末比0.18兆円増加
- 劣後債務の償還や有価証券含み益の減少等により、自己資本は22年3月末比0.57兆円減少

● リスクアセット

- 法人貸出金の減少を主因に、22年3月末比6.02兆円減少

〔採用手法〕

- 信用リスク: 先進的内部格付手法(AIRB)
- オペレーショナルリスク: 粗利益配分手法

- 自己資本比率 : 15.24%
- Tier1比率 : 11.57%

(単位:億円)

	21年9月末	22年3月末	22年9月末	22/3末比
1 自己資本比率	13.29%	14.87%	15.24%	0.37%
2 Tier 1比率	9.13%	10.63%	11.57%	0.93%
3 Tier 1	88,943	100,096	101,941	1,845
4 うち資本金・資本剰余金	35,188	45,599	43,116	▲2,482
5 うち利益剰余金	42,382	44,055	46,661	2,606
6 Tier 2	43,835	44,496	39,907	▲4,588
7 うち有価証券含み益	1,851	3,627	2,965	▲661
8 うち劣後債務	37,515	36,846	33,236	▲3,609
9 自己資本	129,489	139,917	134,216	▲5,700
10 リスクアセット	973,682	940,813	880,543	▲60,269
11 信用リスク	899,023	852,927	793,459	▲59,468
12 マーケットリスク	17,776	19,027	19,733	705
13 オペレーショナルリスク	56,883	68,858	67,351	▲1,506

22年度業績目標／配当金予想

【連結・単体】



- 22年度の連結当期純利益目標を4,000億円から5,000億円に上方修正

【業績目標】

〔連結〕

		22年度		21年度	
		中間期 (実績)	22年度通期 (目標)	中間期 (実績)	21年度通期 (実績)
1	経常利益	5,420億円	9,000億円	2,330億円	5,456億円
2	当期純利益	3,567億円	5,000億円	1,409億円	3,887億円

〔単体〕

(三菱東京UFJ銀行)

3	実質業務純益	5,445億円	9,700億円	4,080億円	8,631億円
4	経常利益	3,944億円	6,600億円	1,250億円	4,078億円
5	当期純利益	2,823億円	4,500億円	1,307億円	3,426億円

(三菱UFJ信託銀行)

6	実質業務純益	762億円	1,500億円	529億円	1,102億円
7	経常利益	628億円	1,100億円	353億円	532億円
8	当期純利益	415億円	700億円	247億円	672億円

【配当金予想】

		22年度			21年度		
		中間配当金	期末配当金 (予想)	年間配当金 (予想)	中間配当金	期末配当金	年間配当金
9	普通株式1株当たり 配当金	6円	6円	12円	6円	6円	12円

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。